

# 補 助 資 料



小中学校の望ましい学校規模（適正規模）の考え方			
		小 学 校	中 学 校
学習環境として		<ul style="list-style-type: none"><li>・クラス替えができる。（柔軟な学級編成のためには、3学級以上が望ましい。）</li><li>・幅広い人間関係作りができる。（クラス替えができるので人間関係が固定しない。）</li><li>・集団の中で多様な役割を経験できる。（少数で同じ顔ぶれの中では役割が固定しがち。）</li><li>・多様な意見や考え方に触れることができる。（自他の違いに気づくことができ、自分なりの考えをまとめる力を育むことができる。）</li><li>・特別な支援が必要な児童生徒への支援が行き届く。（3学級程度あると、児童生徒の特性に合った支援学級が設置しやすい。支援学級の設置には、支援の特性ごとに児童生徒が5人必要。）</li><li>・部活動の選択肢が広がる。（団体競技を複数作ることができる。顧問ができる教員がいる。）</li></ul>	
指導体制として		<ul style="list-style-type: none"><li>・一人一人の児童生徒に目が届く。（複数の教員の目がある。）</li><li>・習熟度別指導や個に寄り添った指導ができる。（複数の教員でグループ分けができる。）</li><li>・集団活動（運動会、文化祭など）の教育効果が上がる。（達成感から得られる自信や仲間意識の醸成。）</li><li>・教員の人数が多く、校務を適切に分担することで、児童生徒と向き合う時間が増える。（一人当たりの業務量が軽減できる。）</li><li>・教員間で研修や相談ができる。（経験の浅い教員への指導・助言、授業方法の研究などができる。）</li></ul>	
		<ul style="list-style-type: none"><li>・全ての教科に常勤の専科教員が配置できる。（学校全体で7学級以上が必要。）</li><li>・主要5教科に複数教員が配置できる。（学校全体で8学級以上が必要。）</li></ul>	
学校運営として		<ul style="list-style-type: none"><li>・出張などで不在の時も他の教員による指導ができる。</li><li>・保護者の負担が過大にならない。</li></ul>	
アンケート結果	保護者一般	<b>3学級</b> （53.1％）理由：クラス替え、社会性や協調性、教員の目が行き届く <b>2学級</b> （29.9％）理由：クラス替え、教員の目が行き届く、人間関係を深めやすい <b>4学級</b> （11.5％）理由：クラス替え、社会性や協調性、いろいろな役割分担	<b>3学級</b> （44.7％）理由：クラス替え、部活動の選択の幅、教員の目が行き届く <b>4学級</b> （32.2％）理由：クラス替え、部活動の選択の幅、教員の目が行き届く <b>5学級以上</b> （15.2％）理由：部活動の選択の幅、クラス替え、集団活動の教育効果
	教職員	<b>3学級</b> （64.7％）理由：クラス替え、教職員が多い、社会性や協調性 <b>2学級</b> （20.9％）理由：クラス替え、教員の目が行き届く、社会性や協調性 <b>4学級</b> （11.7％）理由：クラス替え、教職員が多い、多様な学習環境	<b>3学級</b> （46.7％）理由：クラス替え、多様な学習環境、教員が多い <b>4学級</b> （36.7％）理由：クラス替え、部活動の選択の幅、教員が多い、 <b>5学級以上</b> （11.4％）理由：クラス替え、教員が多い、部活動の選択の幅
通学距離		<ul style="list-style-type: none"><li>・徒歩で通学できる範囲</li><li>・登下校の通学指導がしやすい範囲</li></ul>	自転車通学が可能
その他		<ul style="list-style-type: none"><li>・幼児期からの生活の変化が大きく、低学年においては特に配慮が必要。</li><li>・身近な地域の中で多様な体験をし様々な大人と接しながら成長することで、地域に愛着をもち、豊かな人間性を育むことができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・進学・就職に向けてのステップとして、小学校よりも大きな規模が必要。</li></ul>
望ましい学校の規模（適正規模）			
		各学年2学級以上	各学年3学級以上
		<p><b>適正規模を「各学年2学級以上」とする理由</b> （検討委員会、アンケート、地域懇談会などで「3学級」を支持する声が多い。）</p> <p>下限を「3学級」とする方針に沿った統合を行う場合、地理的要件や児童の居住分布の状況から、児童の通学距離が著しく長距離になり負担が大きく、スクールバスの導入なども運行エリアや台数など現実的ではないと考えられる。</p> <p>現在、一部の学年でも「3学級」を維持している小学校は8校で、将来推計では、さらに減少する見込みである。</p> <p>また、身近な地域の中で様々な大人と接することで、豊かな人間性を育むことが期待できる。</p> <p>以上のことから、「3学級」以上が理想ではあるものの、現状では、下限を「2学級」とすることが妥当と考える。</p>	<p><b>適正規模を「各学年3学級以上」とする理由</b> （検討委員会やアンケートでは、「3学級」以上が望ましいとする意見が多い。）</p> <p>各学年3学級以上であれば、全教科に常勤の専科教員を配置でき、かつ、主要教科に複数の教員が配置できるので、授業の質が高まり、生徒の専門的な疑問や好奇心にも応えることができるうえ、教員の一人当たりの業務量も軽減し、生徒に向き合う時間を増やすことができる。</p> <p>また、この規模であれば、部活動の選択肢も広がる。</p> <p>中学校は、進学・就職に向けての準備として小学校よりも大きな規模が必要で、生徒同士や教員などの多様な考え方に触れながら、将来の進路（キャリア）について考えを深めることができる環境が必要である。</p> <p>以上のことから、学級数の下限を「3学級」とすることが妥当と考える。</p>
※ 検討委員会やアンケート等での意見を抜粋。			



■児童生徒数及び学級数（H29.5.1 現在）

小学校	児童数(人)	学級数(学級)		
		通常	特別支援	計
1 中里小	25	4	0	4
2 山部小	31	4	0	4
3 東小沢小	32	3	0	3
4 中小路小	143	6	3	9
5 仲町小	146	6	4	10
6 油縄子小	194	7	4	11
7 河原子小	206	7	2	9
8 久慈小	265	9	3	12
9 諏訪小	288	12	2	14
10 成沢小	300	11	3	14
11 大みか小	300	11	3	14
12 金沢小	318	12	7	19
13 滑川小	344	12	7	19
14 会瀬小	345	12	2	14
15 塙山小	348	12	4	16
16 宮田小	380	12	4	16
17 助川小	403	13	5	18
18 水木小	405	12	3	15
19 坂本小	455	16	3	19
20 豊浦小	491	16	4	20
21 日高小	504	16	5	21
22 大沼小	513	16	5	21
23 大久保小	537	18	5	23
24 田尻小	562	18	7	25
25 櫛形小	920	29	8	37
特別支援(小)	55		18	18
計	8,510	294	111	405

中学校	生徒数(人)	学級数(学級)		
		通常	特別支援	計
1 中里中	20	3	0	3
2 平沢中	134	5	2	7
3 河原子中	169	6	2	8
4 台原中	214	6	3	9
5 坂本中	219	7	2	9
6 助川中	263	9	2	11
7 豊浦中	272	9	2	11
8 久慈中	275	8	3	11
9 駒王中	322	9	2	11
10 滑川中	399	14	3	17
11 多賀中	408	11	5	16
12 日高中	414	13	4	17
13 十王中	460	14	3	17
14 大久保中	544	16	3	19
15 泉丘中	577	16	4	20
特別支援(中)	34		11	11
計	4,724	146	51	197

合計	13,234	440	162	602
----	--------	-----	-----	-----



## ■今後のスケジュール

年月	会議	内 容
平成 29 年		基本方針の素案検討
7 月	6 回	
8 月	7 回	
9 月		
10 月		素案に対する市民意見聴取 ・ 地域懇談会（中学校区ごとに実施予定 ※計 15 回） ・ 市報、市ホームページなどによる意見募集
11 月		
12 月	8 回	提言（基本方針）
平成 30 年		・ 内部調整（庁内関係部課所との連絡調整） ・ 市議会への説明
1 月		
2 月		
3 月		基本方針の決定

以 上